

栃木 NEWS WEB

宇都宮大学で「生理の貧困」とその背景を考える講座

11月19日 18時10分



新型コロナウイルスの影響で経済的に困窮し、生理用品が十分に手に入らない、いわゆる「生理の貧困」についてその背景などを考える講座が宇都宮大学で開かれました。

この講座は、生理の貧困について、学生たちに自分事として考え

てもらおうと宇都宮大学が企画し、あわせて8人の学生が、対面とウェブ会議形式で参加しました。

講座では、はじめに、大学の川面充子特任助教が、生理の貧困が社会問題化した背景について講演を行い、働き方の問題が影響していて、女性は新型コロナウイルスの感染拡大で打撃を受けたサービス業に従事している割合が高く、非正規雇用が多いことなどを指摘しました。

このあと、市内の病院のソーシャルワーカーが、支援を行った女性のケースについて、コロナ禍で勤務先の飲食店が経営難となり、4回も仕事が変わったことや、「お金がないのに生理は来るので子宮を取りたいとすら思う」と訴えていたと紹介しました。

そして、「生理用品が買えないということは氷山の一角で、その裏で起きていることを想像してほしい」と呼びかけました。

学生たちはメモをとりながら真剣に聞いていました。

参加した学生は「実際の事例を聞いてとても深刻で驚きました。私も困っている友達かいたら声をかけたい」と話していました。

講座を企画した川面特任助教は「これをきっかけに生徒たちには大学内でできることを考えて実践してほしい」と話していました。